「平成 29 年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」
講義・演習の様子

Ⅰ．看護の動向と課題

【看護の動向と課題Ⅰ】平成 29 年 7 月 25 日（火）

＜受講生の学び＞

- 学生時代によく理解できていなかった看護理論やケアリングについて学び直すことができた。昔わからなかったことがわかるようになり、自身の成長を感じる事ができた。
- 学生の時にはわからず見ていた教科書内容だったが、今日学習にきて共感できることが沢山あった。
- 「看護とは」の基本に戻れた。日々、目の前の患者さんでいっぱいいっぱいで、大切な所・原点を見つめる機会になって良かったです。忙しさを理由にしないで、自分の看護って何だろう、どんな看護をしたいのか考え直していきたいと思いました。また、自分の職場の現状をあらためて知ることができ、強みや弱みを意識していく事で今後につなげたいと思いました。
- 看護とは何かをナイチンゲールやヘンダーソンを読み、もう一度看護とは考えるきっかけになった。
- 患者の皮膚の内側に入り込む、奥深い言葉でしたが、これから患者に関わる時に、もう一度言葉・沈黙・表情・動作をみて分析できるように、自分自身勉強していきたい。また、療養上の世話についての自律性に対しても、専門性を活かしてさらに観察できるようにしていきたいと思った。
- 看護について考えることができ、学生や新人の頃の気持ちを思い出した。
- 日常の看護業務で終わってしまっていたが、講義を通して基本を振り返ることができた。
- 地域連携についての他地域、他施設、他病院の取り組みを知ることが出来たので、自分の勤務先ではどういった形での連携または地域や患者に対しての支援ができるのか考えていきたい。
- 私のような小さな町は、地域包括を強化しなければ住民が安心・安全で健康的な生活を行うことが難しくなります。専門職としては、役立てることがあれば貢献していきたいと思っております。
- 他病院の方々との話し合いで、現状や悩みが聞けて良かった。これからの病院看護に生かしていきたい。
- グループワークやメンバーと情報交換することで、自病院以外の現状を知ることができた。
- 授業はディスカッションや情報交換をする機会が多く、良い学びになりました。

【看護の動向と課題Ⅱ】平成 29 年 7 月 27 日（木）

＜受講生の学び＞

- 自分が看護学校の時とカリキュラムが変わっているので、学生実習の受け入れの時にカリキュラムを理解して対応できるように勉強できたので良かった。
- 教育というテーマだったが、日々の業務の中ですぐにでも活用できそうなところが多々あったので、明日以降、実行していけたらいいなと思った。
- 現在と過去の教育制度の違いについて学ぶことができた。新人や学生が持っている考えや、臨床における不安等を知ることができた。今後の教育指導に役立つ内容でした。
- 学生の実習に携わることも、新人教育にかかわることもなかったので、現在の看護教育課程や学生さんの現状など学ぶことができて良かった。
- 自分の学生時代を振り返り、今は違うというところを学び、しかし看護の基本が変わらないということを、しっかりもっていくことも大切ではないかと考えさせられた。
- 現在の教育の実例を聞きながらの講義だったので、興味深く参加できた。今の職場では、教育や指導という点から離れているが、専門職として求められていることを再認識できたので、課題は様々あると思うが努力していきたい。
- 学生さんや新人さんは、それぞれに悩み、努力し教育を受けてきているんだなということを少し理解した気がします。
- 教育に興味があったので、今回かなりの学びを得ました。新人指導に生かしていきたいです。
- 初日に比べて、他職場の人と話が出来情報交換できたので、充実したものにすることができた。
- 学生の時にはなんとなくで、不満や疑問だらけだったが、今日の講義を受けて、そういう考えや目的があって授業など教育の面が行われていると知ることができた。自分が教える立場になった時には、理解したうえで指導の立場にたてればと思う。
- 様々な教育環境で学んだ看護師が同じところで働かなければならず、受け入れる方でもいろいろな問題があるのだろうと考えさせられました。
- 世の中の教育を知ることができ、時代の流れにもっと敏感に（アンテナを高く）ならなければと痛感しました。

Ⅱ．根拠に基づく看護

【看護過程①】平成 29 年８月１日(火)

＜受講生の学び＞

- 看護過程の中のアセスメント、関連図について自分の力で書いて作成していった事で、間違った部分もあったのですが、とても勉強になりました。一人の患者さんのアセスメントをしっかり行うことで、適確な看護診断に繋がり看護計画が立てられるので、もう一度しっかり学び直したいと思いました。
- 看護過程とは？を思い返し講義に臨んだので、興味深く講義が受けられました。
- 症例を使って練習問題ができ、具体的にわかった。
- 普段何気なく行っている看護を振り返るきっかけになり良かった。入院時のアナムネ（既往歴）も何となく聴取していたが、その中にある情報同士のつながりを図式化することで、その患者さんの全体像がわかりやすくつかめると感じた。
- もう一度学習し学びを深め、病院に戻ってから研修等を企画していきたいと考えた。
- あっという間の時間でした。今までは経験と勘でやりこなしていた部分があったことを痛感し、反省しました。頭を使って看護過程を学ぶことの重要性を再確認できました。
- 事例をもとに看護過程を展開でき、わかりやすかった。日常的には電子カルテで、じっくりアセスメントする機会は少なくなっているので、基本を振り返ることができた。
- 看護過程の流れについて、学生の時以来、関連図・アセスメントは勉強する機会がなかったので、実際に例題を見てアセスメントしたことによって、今まで考え付かなかった事や忘れていた事を思い出すことができた。
- 学生のころ苦労した看護過程でしたが、現場では患者さんの全体像や問題点を考えるのによく活用しています。学んだことを振り返り、自分の成長を確認できたことが自信になりました。
- 大学で勉強できるなんて感動です。このような機会を与えてくださってありがとうございます。
- 個人ワークをすることで理解を深めることができた。
- 自分が無意識の中で行ってきた看護過程を紙面上におこすことで、自分が行ってきた看護や評価が正しかったと思える部分と基本ができていないなと感じる部分がありました。倫理や理論は敬遠してきましたが、看護の基本ということを再認識したので勉強しなおそうと思いました。
- 普段、電子カルテで考えて立案しないで病名・症状から選択するのに慣れてしまっていたので、ちゃんと基本に返って計画・立案・評価していきたいと思いました。

【フィジカルアセスメント】平成 29 年８月１日（火）

＜受講生の学び＞

- とても大切なフィジカルアセスメントであるが、自分が学生の頃には詳しく学んだ記憶がなく、苦手意識を持っていました。今回の研修で、しっかり学び身に着けていきたいと思っていたので、基本的な所を再確認できて良かったです。
- フィジカルアセスメントはとても学び直したかった分野なので、勉強になりました。フィジカルアセスメント・ヘルスアセスメントの目的と必要性について改めて再認識でき、業務の中でしっかりと生かしていこうと思います。
- フィジカルアセスメントは学生時代になかったため、初めから学ぶことができ良かったです。今後学びを深めていきたいです。
- 初期アセスメントから基本技術等が学べ、患者のアセスメント時に今後役立てる事ができると思いました。
- フィジカルアセスメントとは、看護の視点も踏まえてみると、健康状態や緊急性を判断して必要なケアを正しく判断するためのものだということが分かった。ＳＰO_2値ばかり気にしていたが、呼吸回数やパターンも重要な観察項目であることに気づけて良かった。
- 基本を振り返ることができた。普段、何気なくアセスメントしている所もあると思うが、全体をとらえながらアセスメントしていけるようにしたい。
- 普段何気なく行っているフィジカルアセスメントも基本にたちかえり学び直すことができたので良かった。
- フィジカルアセスメントの５つの技法（問診・視診・打診・触診・聴診）に関して、今まで患者を診る時に行っていた内容、腹部の順番は分かっていたものの、実際に患者と関わる時にできていなかったと思い、順番を守ってしていきたいと思った。フィジカルアセスメントの大切さについて学べた。
- 『「何を見ているのか」を意識して情報として捉える』という点において、基本に立ち返り「どこ」の「何」を「どのように」「どうみるべきか」を学べた点が良かった。臨床に出て半ば無意識的に普段やっていることが何なのかを明確にできたし、不足している部分が気付けた。
- フィジカルアセスメントを学校では習っていないので、なるほどと思いました。緊急性を判断するために、また、必要なケアを判断するために是非トレーニングして活用していきたいと思います。
- アセスメントの基本を振り返ることができた。
- 基本的なバイタルサインからのアセスメントが忘れかけていた。（特に呼吸）内容理解が大変でした。
- 普段、全身の状態を系統的に情報収集するために、フィジカルアセスメントするというより、ある程度予測をつけて問診や聴診などをしてしまっているように思う。今回学んだ事を実践していこうと思った。

【フィジカルアセスメント（運動器系）】平成 28 年８月１日（火）

＜受講生の学び＞

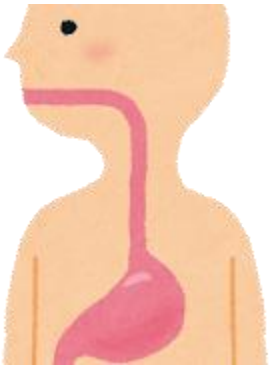
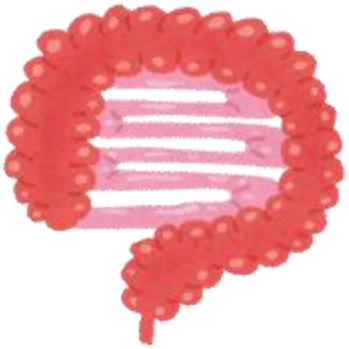
- 外旋、内旋を今まで間違って覚えていた事に気づけました。関節可動域や筋力を捉える事でケアに活かしていけるようにしていきたいです。関節可動域は難しかったですが、ビデオや演習で楽しく学べてあっという間の時間でした。
- 関節可動域測定の実践をできてよかった。評価ツールとして、スタッフ間で共有できる。
- 関節可動域測定を実際に行ってみることで、リハビリのスタッフが日頃どのように評価の基準を行っているのか知ることができた。
- 講義内容を実践に結び付けるためには、まだまだ学習が足りないと思うが、これから学びを深め実践につなげられれば良いと思った。多職種連携で少しリハビリの事がわかったので、より積極的に関わっていけるようにしていけたら良いと思いました。
- 当院では、整形の患者が多く、又、リハビリも充実しています。外来の診療の中に、よく関節可動域やMMＴ（徒手筋力テスト）測定をしている場面をみますが、自分が実際測ってみることで理解することができました。
- 映像や演習を取り入れた講義でわかりやすかった。基礎的な部分は、専門から離れると遠のいてしまう知識だったので、改めて振り返ることができて良かった。
- 患者のリハビリ的なことは作業療法スタッフにまかせっきりな部分があり、あまり目の前の患者がどの程度動けるのかまで考えることはなかったので、今度から興味関心を持ってカルテを見たりケア時に意識してみようと思うことができた。
- 普段、リハビリスタッフが行っていることですが、病棟でも関節可動域を測ってケアに活かせる場面があることを知って（おむつ交換など）、早速行ってみたいと思った。
- 演習を交えた講義で楽しく受講できた。初めて角度計を使った。MMＴや可動域測定については看護学生の時に習ったものの、使う機会がなく、今回再度復習したことで内容の理解が深まった。
- 実際測定してみないとわからないことも多く、学習になりました。
- 今まで可動域やMMＴについて深く考えたことがなかった。ＲＨ（リハビリテーション）記録をみてみようと思う。普段の看護でも測定や評価できるのでやってみようと思う。
- リハビリスタッフとの情報共有に役立てていきたい。
- 講義だけではわからない事も演習を通してなるほどなと思うことが多々あった。今後も演習を含め学びを深めていきたい。
- 角度計がうまく使えなかったが、楽しくできました。可動域を無視して動かそうとしている時もあるので、正しく評価しながらケアに生かしていきたいと思いました。

【フィジカルアセスメント（呼吸器系）】平成 29 年８月３日（木）

＜受講生の学び＞

- 呼吸音、打診の大切さがわかった。現場に戻り、聴診・打診を積極的に行い、聞き分けができるよう経験を増やしていかなければならないと感じた。
- 実際に異常な呼吸音を聴き比べることができ、より具体的でよかった。臨床では異常呼吸音を聴く機会が多い。聴取部位に対応して体位ドレナージを行ってはいるが、曖昧なやり方だったとわかった。
- 呼吸器の解剖生理を基礎から学習でき、臨床で出来ているところと、不足しているところが確認できて良かった。
- 正常を知ってから、異常はどんなものか判断することが大切だということがわかって良かった。
- フィジコ（フィジカルアセスメントの人形）を使って演習することで、異常音を学生さんや新人さんと情報共有できるので良かった。
- 音の違いは言葉だけでは理解が難しく、実際に聴取できて良かったです。実際に聴取しても違いが難しく、経験を積んでいく必要性を実感しました。用語も自分が習った時のままで使用していたので、最近の動向などにも目を向け、正しい記録ができるように努めていきたいです。
- フィジカルアセスメントの解剖学の視点から入り、分かりやすい説明で再学習できた。フィジコを使用して副雑音を実際に聴き、次からは細かくフィジカルアセスメントできると共に、新人指導にもつなげていけたらと思う。
- 自分の中で曖昧であった上・中・下葉の位置を再確認できた。呼吸異常音も実際に聞いて、わかりやすく学ぶことができた。
- 異常な呼吸音の判別を、フィジコを使用し実際に聴取する事で分かりやすく学ぶことができた。
- 普段使っていた記録（表現）は、現在適した表現ではないことを学べ、実践の現場で改めていこうと思い、良い学びができました。
- 内容もわかりやすく学習することができました。呼吸音や副雑音の表現のちがいを改めて学ぶことができました。今後の臨床に生かしていきたいです。
- 呼吸器疾患・循環器疾患の患者に関わる事が多いため、基本を振り返ることができた。新人指導に活かせるので活用していきたい。
- 記録で「エア入り弱性」「副雑音有」など、まだ使うことが多い。スタッフ皆が正しい知識を持ち、共通認識として記録する必要があると感じた。
- 普段何気なくしている呼吸音聴取ですが、適切な部位や目的、肺葉などを再度学び、実際に行ってみて自分の技術として身に付けたいと思います。又、打診はしたことがなかったので、現場でしてみたいと思います。

【フィジカルアセスメント(消化器系)】平成 29 年８月３日（木）

＜受講生の学び＞

- 知識をもとに正常と異常の聴診・音の聞き分けを身に付けていく大切さを感じた。
  腹部の痛みの訴えから急激に症状が進み急変する可能性もあるため、講義内容をふり返り実践に結び付けられるようにしていきたい。腹部の触診は大切だが難しい。
- スクラッチテストなど新たに知ったことがあり良かった。腹部の蠕動音や触診を実践していなかったため奥が深いなと感じた。
- 腹部の聴診・打診などは、腸蠕動・ガス・便の貯留などの判断に使う場合が多い。それ以外にも、たくさんの情報が得られることを再認識できた。
- 腹部聴診は日頃から実施していたが、聞こえるか聞こえないか弱いかをさっと聞くだけで、しっかりアセスメントできていなかった事に気づいた。打診も実際患者さんに実施した事がなかったけれど、今回手技をマスターできたと思うので、アセスメントにつなげていけるようにしていきたい。
- 消化器内科・外科の患者さんと関わる事が多く、実際行っていた技法もあったが、スクラッチテストは初めて聴く技法で、また、打診時の濁音の聞き分けを知ることもできました。救急受診で来る方へも使えるなと思いました。
- 一言で腹部の触診と言っても様々あることを知ることができました。自分の五感で打診時の音の違いを感じる事ができました。
- 腹部の観察は毎回の業務でほぼ 100%診ていますが、腸ぜん動の有無や音の種類、長さなど実際に詳しく診ることができ勉強になりました。肝臓の位置を知るスクラッチテストは今までしらなかったのですが、大変勉強になりました。今後の現場で役立てたいと思います。
- 腹部の打診やスクラッチテストは、ここまで時間をかけてできていなかったので、病棟に戻ってから自分でもしてみたいと思いました。痛みによって、疾患の可能性や種類が違うので、念入りに観察していかなければと思った。
- 今まで自分がしていた聴診が、全く違っていたことがわかった。また、打診までしたことがなかったが、今日、学んだ事を生かしていけたらと思います。
- 聴診・触診等きちんとした手技の再確認をすることができました。スクラッチテスト等、行った事がない内容もあり勉強になりました。
- 腸蠕動音確認を曖昧に行って記録していたことに気付け、正常・亢進・減少の程度がはっきり分かってたので良かった。
- お互いの体を使って学ぶことはわかりやすいし、頭に入りやすくて良いです。
- 分かっているようで分かっていないことが沢山あり、講義演習を通して学ぶことができ、充実した時間を過ごせた。

【フィジカルアセスメント（事例）】平成29年８月３日（木）

＜受講生の学び＞

- 日常の勤務でしていたアセスメントと今回受講できたフィジカルアセスメントでは、全く内容が違っていたと感じました。機会があれば来年も受講していきたいです。
- 基礎を再度確認できた。他者の考えを聞き、考えることができた。
- フィジカルアセスメントをしながら患者さんをみていくことにより、患者さんにとって最良の看護につながっていくことが楽しく勉強することができました。
- 初めに事例をみて、情報量が少なすぎると思ったのですが、そこの不足している部分をこれまで学んだフィジカルエグザミネーションを用いて評価し、アセスメントし、援助につなげれば良いという事に気づいてからは、話し合いや演習がスムーズに運んだと思います。
- 普段、慣れでケアを実施していたが、フィジカルアセスメントを意識して活用することで、患者のＡＤＬ（日常生活動作）拡大にもつながっていくことが学べて良かった。
- フィジカルアセスメントを事例に沿って行ってみることで、普段何気なく行っている援助の根拠を考えながら行う事ができた。
- 今までのフィジカルアセスメントを活用しての事例だったため、実際の症例することで理解が深まった。臨床の場では細かくアセスメントしないまま動かすこともあったので、もっと深くアセスメントすることで患者の状態・状況を把握できると思った。
- 事例を通してフィジカルアセスメントを使用したことで、より理解が深まって良かった。講義だけでわかったつもりになっていたが、実践につなげられなければ何もならないと感じた。
- 演習では他グループの発表を聞けて、自分が考えていたことよりも深く、援助の方法まで検討していたことが学べて良かったです。
- 先生が最後言ったように、普段これが普通のやり方だと思って慣れで行っていた事に反省しました。是非、今日学んだことは定着できるよう、スタッフに伝達し生かしていこうと思いました。
- 少ない情報の中からいくらでもアセスメントできるのだということを今回の事例を通して感じた。日々の業務の中でなんとなく感覚で動いてしまっていたので、今後しっかり根拠づけしていきたい。
- 事例を用いて演習するのは頭をたくさん使って疲れましたが、イメージがわきやすく、終わった後は達成感があって楽しかったです。
- フィジカルアセスメントで自分の看護の振り返りができて良かったと思います。
- 事例を通して学べることが多いので、このような講義は大変良かった。すぐ実践につなげていけそうです。
- 少ない情報の中から、こんなにもアセスメントすることがあるんだと思いました。

【フィジカルアセスメント（循環器系）】平成 29 年８月８日（火）

＜受講生の学び＞

- 循環器に対しては苦手意識が強く、避けていた所があったのだが、少し興味がでたので、これからは少し違った目線で日々の業務に取り組んでいきたい。
- 演習することで、講義内容を振り返ることができ、理解も深まった。苦手意識もあり、避けてしまうことが多い内容だったが、今日の学びを生かせるよう努力したい。自分の五感で観察し、異常の早期発見に役立てていきたい。
- 循環器系というと、心電図の方を重視していて、心音を聞くことが少なかった。心音から得られる情報も多いということがわかり勉強になった。正常な心音をベースに異常が聞き分けられるようにしていきたい。症例を沢山聞いて学習していきたい。
- 普段心音を何気なく聴取していても、音の違いからアセスメントにつなげるまではできていなかったため、疾患と合わせて意識して聞いていきたいと思いました。苦手意識を持っているのに、自分で勉強できていなかったので、参加できて良かったです。音が聞けて良かったです。
- 病院に戻って即実践できる内容でした。
- 本院の患者さんは、高齢者が多く、心不全患者さんも多いため、今回学んだ頸静脈による中心静脈圧の推定の部分で、心不全傾向の患者さんの早期発見につなげることができると思いました。
- 解剖生理の基礎から再確認できて良かった。忘れていた用語を思い出すことができてよかった。
- 循環器のアセスメントは苦手としていた分野だったが、フィジカルエグザミネーションを用いて、何をどのように診てアセスメントするのかが受講前より理解が進んだ。検査のための機器が十分にない状況や、その中で異変に気づくためにも、こうした手技やアセスメントは大切なので勉強になった。
- 内容は臨床でありがちな間違いや心不全の徴候などわかりやすくて、病棟に帰っても応用できそうだった。改めて心臓の位置や正常な音、心音の聞き方を知れて勉強になった。
- 循環器病棟に勤務しているため、心臓の解剖から機能を理解しているつもりだったが、改めて聞くと再認識できた。苦手な分野だったが、その分興味を持って講義に参加できた。
- 普段は様々な検査に頼り切っていることがわかった。心音などは、普段の観察ではなかなか意識して聞かないので、良い学びになりました。
- モニターに頼りがちだが、緊急時など活用できる。うまく使いこなせるように訓練していきたい。
- 患者さんの観察項目としてすぐに活用したいと思います。話すことができない患者さんの無言の訴えを聞いて早期発見につなげられそうです。
- 日常業務内のベットギャッジアップの時や検温時もただアップするだけでなく、頚部も一緒に観察し、患者さんの状態を把握していこうと思いました。

【看護過程②】平成 29 年８月８日（火）

＜受講生の学び＞

- 看護過程を一から学び直せたことが良かった。
- １つの事例であっても、見る人・関わる人によって捉え方が違っている為、現場でもスタッフ間ミーティングなどの情報や考えを共有する場が大切なんだということを改めて考えさせられた。
- 混乱する事例の時には、関連図が有効であると分かり、今後行ってみようと思いました。
- グループで関連図を作成することで、自分の視点では見えていない部分が見え、視野が広がった。
- 今回、看護過程の実践で、こうやってつなげていくんだなという事が何となくわかりました。つながるスムーズな看護過程にするために、もっとトレーニングしていけば出来る！気がしました
- 困難な事例の患者さんが当院には数名いるので、今回学んだ①アセスメント②看護診断③計画について現場でもう一度見直し、受け待ち看護師だけでなく、他のスタッフとカンファレンスなどと意見交換できると良いと思いました。関連図は少しずつ理解できてきたので、困難事例患者さんについて図式化して看護問題を更に明確化できると、より質の高い看護が提供できると思います。
- 実践していく過程では、根拠を明確にし、皆が統一したケアができる計画が必要だと学んだ。マニュアル化されていて個人性が少ない現状を実感したので、少しずつ改善していきたい。
- 関連図に頭を悩ませましたが、問題点が明確になっていく過程が楽しかった。他のグループの発表も聞くことで、新たな発見や繋がりが見え学びにつながったと思う。
- 関連図を記入することで、患者の全体像が見え、問題が明確化すると感じた。新人～3 年目は特にアセスメント不足を痛感している現状なので、臨床でも関連図を活用していきたい。
- 関連図を宿題として自分で取り組んだとき、迷ったりする部分も多かった。グループで話し合うことで、問題が解決したり新たな考えが聞けたりして、関連図作成はとても勉強になった。現場にもどってからも、スタッフと取り組んでみたいと思った。やっぱり、看護はチームで行うものだと思った。統一していくことも大切。（目標、ケア等）
- 関連図作成のグループワークは、人それぞれの着目点が違いおもしろかった。一つ一つの診断を出すのにも、つきつめるとこんなに深くなるのだと感じた。
- 10 年程、病棟を離れており、アセスメント・看護診断・計画立案はとても大変な作業でした。関連図については、入院・退院を繰り返している患者へ使えると思いながら受講しました。
- 当たり前でやっていること、分かっていること、表現したいこと、それらを言葉として表すのがすごく大変でした。
- 頭を使うことがだいぶ減っていたためすごく良かった。反面、考えが偏りがちのため、柔軟な考えで対応していきたい。今後に活かせるように頑張っていきたいと思います。
- 看護という基本は一緒なのに、いろいろな考え方、捉え方が聞けてとても面白い講義でした。

【高齢者の看護】平成 29 年８月 10 日（木）

＜受講生の学び＞

- 高齢者の特徴を再認識できた。普段行っているケアの最中など、ケアだけではなくＲＯＭ訓練を行ったり業務に追われるだけではなくもっと患者に接する時間を増やしたいと思った。入院によって活動低下しやすいが、最小限におさえる関わりを行っていきたい。
- 高齢者の特徴や疾患の特徴では、知らなかった知識もあり、外来・救急での観察時にとても役立つ。
- 高齢者の様々な特徴についての各説明がわかりやすかった。例として挙げられた説明の内容が、どれも具体的に特徴をイメージしやすく、自分の体験と重ねながら聞くことで、特徴をつかみやすく理解しやすかった。（例えば、肺炎の例や、脱水の例、患者の意思尊重・意思決定・退院支援の例など）
- 高齢者の特徴を再確認でき、看護で大切な事の原点に戻れた。その人にとっての最善なケアを怠ることのないよう、尊厳や倫理を常に念頭において日々看護していきたいと思う。終末期看護にあたることも多く、家族との関わり方に悩む場面もあるが、今回学んだ看護職の役割を果たせるよう頑張っていきたい。
- 高齢者が多い病院で働いており、分かっていると思いましたが、今回聞いてもう一度勉強していく必要があり学べた。高齢者の特徴を考えて看護したいです。
- 当院でも３世代の家族が多く、治療の決定は「まず家族に話して」からというパターンが非常に多いです。外来では、その後入院してしまうので、フォローする機会が少ないのですが、そのＩＣの内容や家族・本人の反応をきちんと病棟スタッフへ伝える事の重要性を改めて知りました。
- 高齢者の自己決定・支援については、家族や施設の担当者と患者との板挟みになることが多く悩みどころです。看護職は、できるだけ患者の意思を尊重できるよう援助しなければならない役割にあると感じました。また、患者を取り巻く様々な状態を把握できる立場でもあると思いました。
- 日々の仕事の中で疑問に思うことなどの解決につながる箇所が沢山あって、すごくためになった。
- 自らを振り返りながら講義を聞いていた。特に、終末期についてや高齢者の意思決定・尊厳と人権については思う所があり、大切にしなければならない部分を改めて再確認できた。
- 医療者と家族側から見たアセスメントとケアになりがちでしたが、本人の意思・権利が保たれるような支援の大切さを改めて理解することができました。
- 高齢者の特徴を学ぶことで、もう一度自分のケアを見直すよい機会になりました。高齢者のケアで大切な事、入院による心身の活動低下を最小限に止め、可能な限り元の生活に戻れるよう援助するということをもう一度職場に持ち帰り、ケアの改善を図っていこうと思いました。
- 高齢者の特徴を再確認できた。特徴を踏まえて看護していくことで、その人にあったケアを提供できると感じた。ＡＤＬも大切だが、ＱＯＬも意識して関わっていきたい。
- 高齢者への関わりについては、日頃関わっている患者さんの多くは高齢者のため、高齢者をもう一度見直してみるよい機会になりました。
- 認知症患者さんの接し方・身体拘束について考え直す良いきっかけとなりました。

【認知症の看護】平成29年８月10日（木）

＜受講生の学び＞

- 認知症だから仕方がないとか大変だという思いを改められた講義内容だった。ＢＰＳＤの原因を探り、どう対応していくかをみんなで考えていくこと、個々に合った対応の大切さを再認識できた。
- 認知症患者さんと関わる機会も増え、忙しい業務の中での関わりでイライラする時も多かった。相手の思い、考えを尊重している関わりが出来ていなかったなと反省することばかりだった。思いやる気持ち、待つ心の余裕を持って日々患者さんと接していきたい。今回学んだ事をスタッフに伝えることで意識改革やスタッフの精神的負担の軽減につながるのではないかと思う。
- 自分の行動や声がけで反省しなければと思う内容も沢山あった。忙しい中でも、もっと患者さんの声を聴き、出来る範囲で患者さんの要望に応えていく努力とスタッフの意識づけが必要だと思った。もっと認知症の勉強をしたいと興味が湧いた。
- 認知症看護を実際にしていて、なかなか思うようにいかず、モヤモヤすることがしばしばあったのだが、今日の講義を受け、自己の感情コントロールから始めてみようと思う。
- ＢＰＳＤや認知症の高齢者に対する援助の考え方や方法を臨床の中で早速使ってみたいと感じた。援助を行う際のコツも（アセスメントの方法）資料を見て、講義を聞いて参考になったので、是非実際に行ってみたい。
- 「１人の人」を忘れずに、胸をはれる看護ができるよう頑張っていきたい。
- 日常、忙しさで「聞く」「待つ」ということがなかなかできないが、意識して行っていきたい。認知症は大変だというイメージを改善できた。
- 具体的な支援の方法や声がけなど、現場での看護の見直しをしていく必要を感じました。看護者と認知症の方とのズレの理解や感情的にならず理性的に対応できる環境づくりなど、スタッフ全員で取り組まなければ改善はないので、学習会や事例検討会を行っていく重要性を感じました。
- 今までは、認知症の患者さんという見方で一人の患者さんに接してきたが、今回の講義をお聞きして、認知症患者という見方から、一人ひとりが個々に人生を生きてきて、今を生きているんだという当たり前の事に気付かされた。認知症の方の行動や言動にもきちんと理由があり、苦しんでいる事を忘れてはならないと思った。
- このような勉強会を今後も継続して頂きたいです。長年看護師を続けていて原点に戻ることができ、大切な機会（時間）を与えて頂けている事に感謝しています。

【災害看護】平成 29 年８月 15 日（火）

＜受講生の学び＞

- トリアージは去年研修で聞いていたものの、今回の講義をきいて、山形県の動向や、もし、自分たちの病院に運ばれてきた時に場所はどうするのかを演習を通して学習できた。災害支援ナースには登録していないが、是非、時期を見て登録したいと思った。
- 災害看護に関しては、あまり身近なこととして認識していない部分があったので、考えを改めて日々過ごしていきたいと思った。実際にタグを切り、事例を通して学ぶことができてよかった。
- 外来勤務をしている上で、直結する問題です。定期的に災害訓練はしているのですが、傷病者が押し寄せてきた際のトリアージ法や、エリア設置の検討までしていなかったため、今後の訓練にも組み込んでいこうと思います。
- 緊急時の病院でのレイアウトなど、すでに示されているものではなく、自分達で考えるというのは、いろいろ想定して考えられるので良かった。
- 当院は小規模病院なので、ＤＭＡＴ等なかなか知り得ないことが多い現状なので、今回の勉強を機会に、当院の災害マニュアルの確認を皆でする必要があると思いました。
- 災害看護は自分とは縁遠いものとどこかで思っていた部分があったが、自分の身近でおこった時病院としてどうなのかを考えていく必要があると思った。今やっている防災対策やマニュアルで本当に機能するのかという視点で、見直してみたいと思った。
- 日々の外来で患者さんをトリアージする時と、災害時にトリアージする時の捉え方が違うため、戸惑いがあります。しかし、災害時と平時の捉え方の違いをきちんと理解し、災害訓練時など、定期的に演習をすると良いと思いました。
- 「どんな病院でも、病院というだけで人は集まってくる」という先生の言葉が印象的。職場で、または、地域で自分は看護師としてどういうことができるか考えていきたい。
- 災害に対しての意識が薄れてきていたので、災害対策の大切さを改めて実感できた。看護師としてできる部分と、地域の住民としての役割をもう一度振り返りたい。トリアージは、定期的に訓練していないと身に付かないと感じたので、自分の施設でも訓練をしていきたいと思った。
- トリアージの方法と病院内での配置など、とても勉強になりました。自分達の病院で日頃の火災訓練の他に災害時の対応についても訓練したり、一人ひとりのスタッフが考えておかなければならないと思いました。
- ＤＭＡＴ（災害派遣医療チーム）は知っていましたが、ＤＰＡＴ（災害派遣精神医療チーム）は知りませんでした。基本的なトリアージの方法を知ることができた。

【緩和ケアの看護】平成 29 年８月 15 日（火）

＜受講生の学び＞

- 終末期看護は以前から興味があったこともあり、すごく興味深く聞かせてもらいました。緩和ケアの方もあわせて結論だけでなく、そこに至るまでの過程もすごく大切なことなんだということが分かった。主治医の指示だけでなく、ベッドサイドにいて寄り添える存在だからこそ、先生へ意見を言っていいと分かっただけでも今後につなげられそうです。
- 外来でも、沢山ターミナルの方と接します。時間が取りづらい外来のなかで、どう声掛けしたらいいか・・・、時間がもっとあればいいと思うことが度々あります。患者さんや家族も話したいのに、看護師は忙しそうで声がけしにくいと思っているだろうなと思いながら日々過ごしている現状です。
- エンゼルケアのマッサージは行っていますが、保湿の必要性は新たな学びでした。取り入れて行こうと思います。
- オピオイドの使い方と根拠、事例問題を交えた解説がわかりやすく勉強になった。エンゼルケアの方法を、根拠と共に教えてもらえたので、実際に活用したい。また、本人や家族への援助など、できることからやっていきたい。
- 日々のケアを見直すいい機会になりました。（病院にもどってから、話し合いたいと思います）
- 死に対しての考え方が今までと変わってきました。エンゼルケアと看取りについて、もう一度考えて今後のケアにつなげていきたい。
- 緩和ケアへの知識がほとんどなかったので、疼痛緩和や薬について、看護師としてできることを学びました。終末期の患者様も多く、病院でのしばりもある中でも、緩和や看取りについてみんなで話し合い、「その人らしく」を大切にできる看護につなげていきたいと思います。
- 終末期を迎えるにあたっての患者と家族への援助、死後の援助の理解を深めることができた。
- 今までは、医師の指示を疑問も持たずに使用していたが、薬について効果・副作用等をもっと学び、医師に提言していけるようになりたいと感じた。痛みの評価を行い、副作用の評価を行い、医師と話し合いを持ちながら、痛みを我慢させずその人らしい生活を支えていけるようにしていきたい。
- 終末期における患者・家族のケアについて、学びを深めることができた。地域的に高齢夫婦で、キーパーソンが近くにいないという方が多く、家族ケアが難しい面もあるのが現状ですが、小規模な施設だからこそ密接な関わりができるという利点もあるので、今日の学びを生かしていきたい。
- 一般病棟だからできる緩和ケアについて、日頃自分達が行っているケアが本当に患者様が望んでいる事なのか、一つ一つ振り返りながら行っていくことが大切だと思いました。
- オピオイドの換算比等、今後実践で役に立つ内容で、特に、エンゼルケアの方法は勉強になった。

【褥瘡ケアの看護】平成 29 年 8 月 22 日（火）

＜受講生の学び＞

- ＤＥＳＩＧＮ－Ｒは当院でも使用していますが、細かく話を聞いて、例と合わせてできたのでよかった。実技でも、椅子に座ってなでるだけで全然ちがう重さになったし、少しのことで変化すると実感できました。
- とても実用的（現場）な内容ばっかりで、本当にわかりやすく勉強になりました。実際、現場でのケアにバラつきがあるので、整理したいと思いました。
- 褥瘡の写真を見ながらＤＥＳＩＧＮ－Ｒのつけ方を教えていただいたので、わかりやすかった。軟膏基材の特性や被覆材の特徴があいまいだったので、よくわかりました。ポジショニングについても、よく考えずに「こっちに傾いているから、これ以上倒れないように枕をはさむ」と単純に対応していましたが、どこに体重がかかっているのか、腕をどこにおけば楽なのか、もっともっと患者さんの立場になって考えなければいけないなと思いました。外来で長時間車椅子に座りまっている方へも、もっと目と手をかけていこうと思いました。
- 雑誌や本を購入して褥瘡ケアを学んでいましたが、ドレッシング剤の選び方や軟膏を使うか使わないかの判断は、いつも迷っていました。また、雑誌や本を見ても理解が今一つでしたが、今日の講義で理解が深まりました。
- 褥瘡評価に対しては苦手意識が強く、さけてきたところがあったので、自分の意識をかえることにつながったのでよかった。
- ビニール袋一つで、接触点のかかりやすいところがわかったり、接触面積を広げることができる方法は、すぐ活用できるのでよかった。軟膏と被覆材の選択の仕方がわかりやすかったです。
- 当院でも、褥瘡の評価をＤＥＳＩＧＮ－Ｒで行っているが、もう少し評価の徹底を図る必要性を感じた。臥床時等のポジショニングについて、もう少し講義が聞きたかった。
- 褥瘡の評価スケールについて、詳しく教えていただいたので、とても勉強になりました。軟膏なども、何を使えば良いのか迷っていましたが、きちんとアセスメントをし、判断したいと思います。実際に、圧のかかっている所を確認することができ、対象者の身になって実感することができました。
- 褥瘡評価の再確認ができた。実技もあり、良かったです。
- 褥瘡の評価方法や治療についての知識を再確認できた。演習を通して、予防の大切さも改めて実感した。自分の施設にあるものを有効に使いながら、統一したケアを行っていくことが予防へもつながると思うので、今回の学びを伝達していきたい。
- 当院の入院患者は高齢者が多く、低栄養・寝たきりにより褥瘡になってくる患者も少なくない。
  日々、患者さんの皮膚状態の観察は重点的に行っていても、ポジショニングはあまり気を配っていなかったし、今回の実演で、ビニール袋を使用した重力の調べ方は大変勉強になりました。病棟でも早速使ってみたいと思います。

【摂食・嚥下ケアの看護】平成 29 年８月 17 日（木）

＜受講生の学び＞

- 病院では嚥下機能低下している患者さんが多いので、興味のある分野だった。必要な患者はＳＴ（言語聴覚士）に評価を依頼しているが、自分でも簡易評価できること、方法が知れて良かった。ＳＴに丸投げせずに、自分達のアセスメントも含めた視点で、食形態など検討したり記録に残していく事で、みんなで共有していければと思った。
- 食事介助をしていると、やはり窒息や誤嚥が怖く感じる。口腔ケアもブラシの必要性も理解できた。
- 嚥下機能が低下している患者さんにどうアプローチしていくか毎日のように悩んでいます。患者さんの食べたいという意欲や気持ち、実際の嚥下状態、家族やスタッフの食べさせたいという気持ちを、どうアセスメントして実施していくか、援助に繋げていくか、患者さんの満足感に繋げられるか、学んだことを持ち帰りやっていけたらと思います。
- 間接的嚥下訓練の舌抵抗訓練とブローイング訓練は、初めて聞く訓練法でした。食事介助中、「嗄声が出てきたけどムセリがないから大丈夫」と判断して食事を続けていた事もありましたが、今回学んだ事をしっかりアセスメントしながら介助しなければと反省しました。
- 自分が思っていたよりベッドアップ 30°が高かったなど、発見が沢山あって良かった。
- 実際、トロミ剤摂取やオブラートでの乾燥体験をして、患者さんの気持ちがわかりました。いかに美味しく召し上がっていただくか、考えていかなければと思います。
- 食事は栄養摂取の目的を重視してしまいがちだが、楽しみやコミュニケーションを図ることも目的としてあるということを再認識した。安全に食事ができるように評価をしながらも、制限をするのではなく、その人に適した食事を選択するようにすすめていきたい。
- 口腔ケアは、毎日食後に行っていますが、歯が残っている方で指示が入らない方への歯磨きの仕方などに困っていましたが、勉強になりました。ゼリーを食べている方も多いのですが、舌の力が弱く、押しつぶしが困難な方にはゼリーが窒息のリスクが大きいので、気を付けていかなければならないと思います。実際の演習を通して、嚥下について再度勉強になりました。食事介助はコミュニケーションの一つと考え行っていきたいと思います。
- 嚥下の仕組みの再確認ができ、口腔ケアのポイントや適切な嚥下時の姿勢等、勉強になりました。
- 明日からすぐ実践できる内容で、大変学びが多かった。また、演習もあり、体験してより理解が深まった。

【糖尿病の看護】平成 29 年 8 月 22 日（火）

＜受講生の学び＞

- 当院では、ＣＤＥＪ（日本糖尿病療養指導士）が沢山おり、外来での個人指導やフットケアも充実しています。DM（糖尿病）の方はＣＤＥＪの方に頼りきりで、当直帯などDMの方からインスリンについてなどの問い合わせがくるとしどろもどろになっている状況です。内服薬・インスリンの種類が年々増え、覚えきれなくなってきていますが、きちんと整理し勉強しなければと思いました。
- ＤＭのある患者様と関わる事が多いですが、最新の情報などは勉強していなかったし、忘れていた部分も多々あったので、受講して良かったです。災害時の時まで、目を向けたことがなかったので、今後指導に関わる機会があれば活用していきたいと思いました。
- 個々の生活をしている環境が違うので、目標値であったり、アドバイス内容であったり、臨機応変に対応できるように、知識を深めなければならないと感じました。現場で個々に沿った形で援助・指導できるようにしたいと思いました。
- ＤＭの患者は口がうるさく、特に好んで関わりを持ててなかったが、少しでも自ら積極的に関わりをもっていって、今後苦手意識をなくしていきたい。
- 基本はあるけれど、その人の生活に合わせたアドバイスや関わりが大切だと思いました。「その人の生活に寄り添う」を心がけたいと思います。
- うちの病院では、高齢者がほとんどなので、高齢者の血糖コントロールの目標がわかって良かった。
- 一番初めに先生からあったように、糖尿病（または糖尿病患者）に苦手意識があった。糖尿病気質という言葉にとらわれ過ぎていたような気がする。講義を聞いて、それぞれの生活の中での原因・理由を探りながら、本人・家族を含め指導する大切さを改めて感じた。
- 糖尿病についての知識を深めることができた。患者指導についても、個別性を踏まえて実践していく重要性を学んだ。
- 糖尿病患者さんは年々増加傾向にあり、当院も比較的多いです。入院中に血糖コントロールを行う方も多いため、医師の指示に従ってインスリン投与を行っています。しかし、ただ指示を行うだけでなく、薬の特性（持続時間・即効性・注射のタイミング）などを学習し、現在使用中のインスリンの種類、患者さんのデータを照らし合わせていく必要があると思いました。特に高齢の糖尿病患者さんの特性については、フレイル・サルコペニアはあてはまる方が多いと思いました。糖尿病と認知症に関連性があることも勉強になりました。
- 病態～合併症、インスリンの作用等分かりやすく学ぶことができました。フットケアの方法も分かりやすかったです。

【リハビリテーションの看護】平成 29 年８月 17 日（木）

＜受講生の学び＞

- リハビリの実技を自分で行ってみて、普段リハビリの方が行っていることの意味や効果がよくわかった。その効果を考えながら、病棟でもリハビリテーションできるようにしたい。
- 日常の業務に活かせることが沢山あった。
- 早速、臨床でやってみようと思いました。演習で、実施上のポイント指導を受けながらできたので、学びになりました。
- 寝返りや起き上がり動作の介助は、私が最も苦手とする介助です。患者さんに恐怖心を与えてしまっている気がします。ポイントがわかりました。
- リハビリスタッフが行っているリハビリの根拠が理解できました。外来にくる患者さんの家族への指導にも取り入れたいと思いました。
- 体交や起居動作など、人によって動き方が違い、それに合わせた介助をすることで、自立に向けた援助をしていくことができると、実演を通して知ることができた。
- 実技があり、わかりやすかったです。現場でリハビリに対しての理解が深まって、良いコミュニケーションが取れそうです。
- できないからすぐ介助でなく、観る・待つがとても大切だとわかった。
- リハビリテーションの考え方・評価等を学んで、患者に対する目標は同じでも視点が少しズレる（看護の場などでの）ところが、現場でたまにある意味がわかった気がした。連携・意思疎通・話し合いが大切ということを改めて感じた。
- 病棟リハビリ委員会として、やるべき課題が見えた。
- 通常の業務では忙しさや簡単さを理由に、全てを介助してしまうことが多いと実感した。介助者の負担を少なくしながら、自分で行えるところは実施してもらい、予防やＡＤＬの維持に努められるようにしていきたい。
- 高齢化に伴い、本人の持っている機能を生かしながら、できない事を援助していき、在宅復帰率を上げていくうえで、リハビリの働きは重要だと思いました。
- 運動と脈拍の関連や、関節可動域訓練、ポジショニング等、病棟で生かせる内容でした。
- 関節拘縮に対するケアについて、実践してみたいと思った。

【急変時の看護】平成 29 年８月 24 日（木）

＜受講生の学び＞

- ＢＬＳ（一次救命処置）の基本的手技から根拠までとてもよくわかりました。実践は緊張しますが、何度も繰り返す重要性、振り返って次へ活かすことが大切だと思いました。そうそう、急変にはあたらないため、シミュレーション（訓練）が必要となると思いました。正しい観察ができるよう、迅速評価、一次評価を強化していきたいです。
- 急変時の対応で、練習でもパニックになってしまっている状態なので、今日受講したことを生かして少し落ち着いて対応できるように、そして、後輩たちに指示できるようにシミュレーションしていきたいと思います。
- ＢＬＳは院内でも研修を受けたが、忘れている部分が多かった。呼吸・循環・意識外観の観察や急変時に冷静に対応できる力をつけていきたい。勤務しているとリーダーになることばかりのため、後輩やスタッフにきちんと指示を出せるようにしたい。
- 現場でＣＰＲを実施するが、胸骨圧迫のシミュレーションは行ったことがなかった。正確な深さ、速さなど確認しながら行うことができてよかった。
- 実際に体を使ってシミュレーションや演習をしてみて、思った以上に大変であり、分かっているつもりでも分かっていなくて繰り返しは大切だなと感じました。すごく楽しく参加させてもらいました。
- 急変対応は滅多にないのですが、時々しかやらないため、いざという時に緊張してしまいます。定期的に振り返りをしていきたいと思います。かねてから疑問だった AED の装着の判断など、詳しく説明していただけて助かりました。
- スケール等の使用や急変時の評価の仕方、Ｄｒへの報告の仕方などをわかりやすく学べた。
- 現場での急変対応の振り返りができて良かったと思う。患者の状態変化に気づき対応できるよう、今回学んだ事を生かして行きたい。
- 年に１回は救急の講習に参加しているが、繰り返しシミュレーション等を行う機会を作り、職場で生かしていきたい。急変時の対応も大切だが、予測できる力も大切だという事を実感した。
- ＩＣＴでもクッションを胸部代わりに使用し、胸部圧迫の速さ・リズム・深さなど再確認できました。当院でも、新人さんを中心に、経験者でも再確認の意味でシミュレーションを行って、常に急変に備えられるようにしておくことが重要だと思いました。
- 講義で学んだ事をもとに、事例にそって再度確認しながら、振り返りながら学習できた事が良かった。急変時のシミュレーションは、当院でも年に１回行っているが、講義の中で行ったような振り返りのディスカッションをしていくことの大切さを身をもって実感した。
- 急変した患者のアセスメント方法、心マッサージの正しい方法等知ることができました。死戦期呼吸等、普段目にすることがない事例を学べ良かったです。

Ⅲ．地域密着連携

【地域医療連携】平成 29 年 8 月 29 日（火）

＜受講生の学び＞

- 他施設や病院の現状や取組を知ることができた。今後は地域の特性に合わせた総合事業に改正されていくことがわかり、自分の施設が地域住民にとって、どのような役割を担っていく必要があるのか、地域住民からは何を望まれているのか知っていく必要があることがわかった。
- 地域医療連携・地域包括ケアについて、自分が所属する病院でどういった取組みをしているのかや、地域の特色について実はよく知らない事に気づけた。自分が住む地域や病院について、知りたいと思った。また、従事者間での連携で、お互いの何を知ったら良いかを考えられたことが新鮮だった。
- 地域包括支援センターや地域包括ケア病棟については、今回の研修までほとんど知らず、事業内容や病棟の役割について学べた。必要性についても考えさせられた。
- 自施設でも地域医療連携について会議をしているが、いまいち連携が取れていないような気がするので、今回学んだことを生かし少しずつ連携がとれるようにしたい。
- 地域医療や連携について実際に考えてみた時に、自分の勤め先の地域や病院にどんな取り組みがあるのか、特徴があるのかわからなかったので、今回を機に知る必要があると思った。
- 自分の職場の多職種のこと、地域や全国的にどういう動向になっているのか、常に情報を収集していく、視野を広くもっていくようにしていきたい。
- 「言葉にする」というのは難しいとつくづく思った。
- “看護職”を他人に説明することの大切さを知りました。
- 自分の病院での取り組みについて、よく理解していなかったので、まずは自分のところはどうなのかを知り、自分の役割や課題を見出していきたいと思いました。
- 私は現在、地域包括ケア病棟に勤務しており、今回の研修は地域医療連携のテーマで、個人的にとても興味深いものだった。特に他の病院・施設の方のお話も聞けて、本当に日々自分が悩んでいることや課題にあげた部分について、共感できる部分も多くて、励みにもなった。これからもより一層、地域医療連携について学び、生かしていきたいと思った。
- 講義に参加している病院・施設の方々の話を聞いて、地域連携のゴールは同じでもアプローチの仕方は地域によって色々なことに取り組んでいろいろな方法で行っていることがわかって良かった。思いの違い（相手が何を大切にしているのか）を知り、患者や利用者の思いに添えるようにしていかなければならないと感じた。

【連携のためのスキル～ファシリテーション～】平成 29 年８月 31 日（木）

＜受講生の学び＞

- 自身の意見をなかなか言えない環境にいて、やきもきすることも多々あったので、今回得た知識を今後の現場に生かし、少しでも自分の意見や他の人の意見を吸収していけばいいと思いました。小さなものも積み重なるのは大きな力になるんですね。
- 今回学んだことは、地域のみならず、例えば病棟のスタッフ間でも使えそうだと感じました。病棟で新しく何かに取り組みたいと思った時に、スタッフのやる気がなく、あいまいな返事・対応をされて軌道にのらずに終わってしまうことがありますが、ファシリテーションを活用しながら、仕事しやすい職場、働くのが楽しくなる環境作りをしていきたいと思いました。
- アイスブレイクしてからのグループワークは緊張もほぐれ、グループの雰囲気もよくなり、みんなが楽しく意見を言い合えて、とてもいい経験になりました。これから私達医療や福祉に関わる人間にも職場のＨａｐｐｙな雰囲気作りにとても役立てられるし、一人ひとりがこの分野について学んで、より良いスキルを身に付けたいと思いました。
- ファシリテーションという言葉は初めて聞き、自分が苦手とするものだったため、役割を学べました。リーダーに必要なものでもあるため、この能力を高めていきたいと思います。
- 発想もたくさんの人が集まれば、おもしろいものになると実感できた。人の意見を聞く、否定しないは、グループワークの基本かもしれないが、ファシリテーターの役割は、大変難しいと感じた。
- 現場（病院）で今まさに色々な問題に直面している。今日学んだ事を生かして、問題解決に向けて頑張れるような勇気をもらった。ＨＡＰＰＹな職場になるよう頑張りたい。
- アイスブレイクは初めて知りました。職場のスタッフにも広めたいと思います。現状が幸せなのか、幸せとは何なのか考える機会になりました。グループワーク楽しく行えました。
- アイスブレイクから始めていって、同じ班のメンバーとうちとけて、その後のグループワークに生かせました。グループワークをすることで、チームで活動する大切さを学びました。
- 専門（医療）から離れた内容で、新鮮でした。グループワークは考える時間が大変かと思ったが、それぞれの意見をききながら、最善の方法を見い出していく過程が、想像以上に楽しかった。ワークショップでの学びを連携につなげていけるようにしたい。
- 医療系以外の方の講義もわくにとらわれず楽しかったです。
- 職場での環境作り、人間関係にも役立つ内容で良かったです。

【連携のためのスキル～コーチング～】平成 29 年９月５日（火）

＜受講生の学び＞

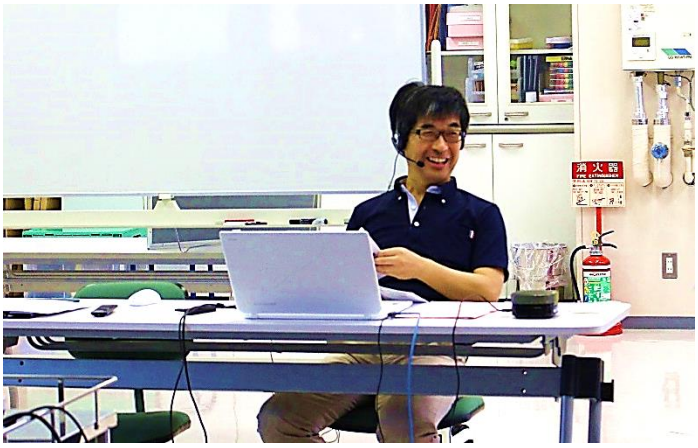
- コーチングの言葉は聞いたことがあったが、具体的な内容までは知らなかったので、とても勉強になりました。「傾聴」とよく使うけれど、実際に演習してみて、具体的なスキルや大切な事を学んだので、即活用していけると思いました。
- 質問の仕方がわかった。実施したい。ただ聴くだけでなく、相手に聴いていることを意識させる大切さを知りました。
- グループに分かれて話を皆さんとできて、いろいろ考えの違いや新しい発見があって、とても勉強になりました。繰り返しスキルを使い、自分のものにしていければいいなと思いました。
- 相手を誉める、話を傾聴する等、コミュニケーションスキルを学ぶことができました。職場のみでなく、家庭や友人関係でも生かせていけると思いました。
- 自分のタイプがわかり、自分がどういうふうにされると嬉しいか、仕事しやすいかがわかり、自分をより知ることができたと思った。また、タイプ別にどういう関わり方、伝え方をしたら良いかもわかった。今後に役立てたいと思います。失敗しながらでも繰り返して身に付けたいと思った。
- 職場環境だけでなく、家庭生活にも生かせることができる内容の研修でした。普段できていると思っていてもなかなかできない誉める事、感謝を伝える事、小さなことから繰り返し日々の生活で使っていければいいと思いました。
- 相手を誉める事の大切さとタイプ別の対応の仕方について、興味をひく研修だった。一日あっという間に終了し、とても楽しくて自分の職場でもこんなに笑顔あふれる関係性がつくれれば忙しい業務の中でもお互い協力し合って業務がこなせ、雰囲気もよくできると思った。
- 相手を受け止める、認めることがなかなか難しいが、自分に余裕を持つことで実現に繋がると感じたので、今日の学びを生かしていきたい。実生活でも生かせるスキルだと思うので、子育てにも生かしてみたい。
- 自分を知る、相手を知る、相手の特徴に合わせた対応を心がけていきたいと思う。
- いろんなタイプのあつまるリーダーをまとめあげることがとても大変です。悩みながらコーチングして、病院をより良いものにできるように頑張りたいです。
- 病院スタッフにも是非受講してもらいたいです。

【地域医療の実際】平成 29 年９月７日（木）

＜受講生の学び＞

- 私は今回の研修で、地域医療のことを学ぶまで、地域医療連携システムのことをほとんど知りませんでした。外来では、地域連携スタッフがまとめてしてくれた段階で患者情報を提示してくれるので、“結論”にしか興味がなかったのですが、その「途中経過」がとても大切で大変な仕事なのだということを知ることができました。
- これまで、地域連携システムについて、地域の特色・病院ごとの取り組みと現状と課題・連携のために必要なスキル等、それぞれについて学習したり考えたりしましたが、今回はそれらを統合して頭の中を整理する機会になりました。「将来、こうなったら良い」というビジョンを講義に参加したメンバーと共有できたことも心強いです。
- 今現在の課題やこれから取り組まなければならないことなど、沢山すべきことが視覚化されて、本当に考えさせられました。全部とは言わずとも、何か一つでも地域のために活動でき、地域包括の先駆けになっていければいいと思いました。
- 病院のある地域、自分が住んでいる地域について自分の興味が薄く、全く知らない事に気づきました。意識して調べてみようと思います。地域のおいしい店以外にも目を向けてみようと思いました。
- 現在の地域包括に不足しているもの、問題点を考え、改善策をあげ、どのようにアプローチしていけば良いのか学ぶことができました。
- 今までの講義での学びを生かして、課題や解決策を導き出すことができた。グループワークでそれぞれの意見を聞き、改善策を明らかにできて、これから地域医療に関わっていくヒントになった。有意義な研修でした。
- 他の施設の方とグループワークを行ったことで、自分達が気づけなかった課題や問題点をみつける事ができ、これからの私達の地域の医療連携につなげていけそうだと思いました。
- 他の病院の包括ケアの現状を知ることができた。どの地域も同じような問題を抱えていて、その改善策も考えていることは同じだと思いました。
- グループワークがある事で、いろんな意見にふれられ、地域連携での自分の出来る事について、考える事ができたので良かった。
- 地域包括ケアの現状と課題をグループで出し合ってポスターにまとめる事で、明確化できて今すべき所は何なのか考えることができた。初めてのＩＣＴもスムーズでした。
- 自分達が取り組んでいることを見直し、また課題は何かを考え直すことができて大変良かったと思いました。

【地域連携事例検討】平成 29 年９月 12 日（火）

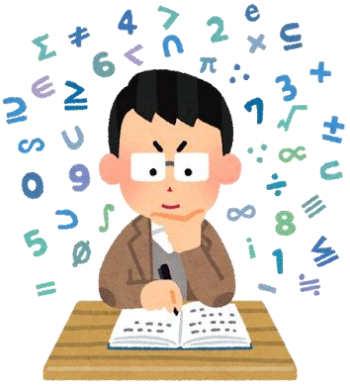


＜受講生の学び＞

- 地域との連携について、事例をあげてグループワークできたのでよかった。他の病院の連携のシステムなど聞くことができて参考になった。リハビリ（ＯＴ．ＰＴ）の視点が分かった事で、より連携を取りやすいのではないかと思い、是非生かしていきたい。
- 事例を検討していて、施設を利用するのか、在宅で暮らせるのかの違いとして「生活ができるか」という点がとても大きいウエイトをしめることに気付ました。ＡＤＬ（日常生活動作）も大切ですが、生活できる能力という点に目を向けていく事も大切だと気付きました。
- 事例検討では、他施設の事例の振り返りをしながら、グループワークを通して、看護師の関わり方、連携の取り方の可能性を話し合うことができ勉強になりました。多職種や地域を巻き込んで、どういうことができるのか、職場でも話し合ってみたいと思いました。
- まとめるって難しいですが、完成すると達成感があり、思考の整理にもなって良かったです。
- リハビリスタッフ側から見た視点、看護師から見た視点との違いは何か学ぶことができた。お互いがどんな風に考え、実施しているのか、相手の視点に立つことが重要だと再認識できた。事例検討では、様々な視点からの意見が聞け参考になった。
- 「見えないものを信じる力」が大切という言葉が印象に残りました。
- 事例検討会をした時に、どのように進めて行ったら良いかもこの研修で学ぶことができました。
- 理学療法、作業療法の見る視点などが学べて良かった。動画をみて、以前聞いたことのある「地域の道路を病院の廊下と見なしてケアにあたる」ということを改めて考えさせられた思いがした。
- 事例検討やグループワークは、初め苦手意識がありましたが、実際に行ってみると、案外楽しくなりました。たまの研修は刺激になり、よい気づきや学びになりました。
- ＩＣＴでのディスカッションは２回目で、とても有意義でした。うまくいった事例や困難事例など、院内の中の外来や病棟、また訪看（できれば他職種のスタッフ）と検討会を行うと、また新たな発見ができるのではないかと思いました。

Ⅳ．看護研究の基礎

【看護研究の進め方①】平成 29 年９月 15 日（金）



＜受講生の学び＞

- 「研究」という言葉を聞くと拒否したくなるが、研究の目的を再確認し、自分のスキルアップのためにも頑張ってみたいと思った。
- 文献、先行研究を調べることが、自分が研究するうえで大切な事だと知ることができた。自分がしたい研究と似た研究が先行研究にあったとしても、研究環境の違いで結果が違うことを知り、困らず研究できれば良いと思いました。
- 看護研究は当院でも毎年のように行い発表しています。何度か研究も行ってきましたが、改めて計画書の作り方や研究の意義などを学習し勉強になりました。研究は、看護の質の向上には決して欠かせないものであり、自らのスキルアップと病棟への良い影響を与えられるものなので、これからも意欲的に取り組んでいきたいと思います。
- 動機が大切という事はわかっているが、それを言葉に表すのは難しいです。
- 研究の進め方、基礎について再確認することができました。日頃、疑問に思っている事に関心を持っていければと思いました。
- 研究をすることが最終ゴールではなく、実践することが大切であることを学んだ。
- 研究を行ったことがなかったため、研究の基礎を知ることができた。働いているなかで疑問に思う事、問題解決につながるように取り組んでいきたい。
- 「研究」と聞くとやはり気が重くなってしまいますが、「何のために」を考えると興味ある分野でやってみようという気になれました。言葉一つひとつ難しく固いイメージですが、詳しく教えてもらいながら進めていき、理解を深めたいと思います。
- 看護研究の進め方について振り返りができ、注意点を知らなかった点もあったので良かった。
- 看護研究に対して、苦手意識が強いのが自分だけではないことがわかって安心しました。
- 苦手意識がつよく避けてきたところが沢山あったが、自由研究にたとえられ、簡単な疑問からでいいと分かり少しホッとしました。
- 研究の意義・過程・デザインについて再確認できた。が、疑問に感じていることが研究目的に繋がっていかず、困ってしまうのが現状です。
- 終了時には「やってよかった」と思えるように頑張りたい。

【看護研究の進め方②】平成 28 年９月 15 日（木）

＜受講生の学び＞

- 研究の進め方について学べた。文献を読む機会を増やして、知識を深めながら役立てていけるようにしたい。日々の業務で感じる疑問や不安を発展させていきたい。
- 文献の検索方法、研究を行う時の心構えなど知ることができて良かった。文献検索を実際にできたのが良かった。
- 最近の自分が何を疑問に感じているのかを振り返る機会になった。ネットで検索することで、疑問について調べ、知識を深めたり、疑問を解決したり、解決への糸口を見つけることができた。普段はネットで調べて必要な書籍や論文を直接購入していたので、文献の検索法を知れて良かった。
- 研究の目的や進め方、文献検索の方法がよくわかった。今まで研究発表するよう言われても、どう進めたらいいか、どこをポイントにするかわからなかったが、詳しく説明していただき良かった。
- 看護研究の進め方の注意すべき点について再確認することができました。質の高い論文の選び方等、非常に勉強になりました。
- 文献検索が一番苦手で難しいがクリアして、日頃の疑問点や改善点の研究に取り組んでいきたい。
- 難しい言葉や例えをかみ砕き、分かりやすい言葉で例えながら進めてくれたのでイメージしやすかった。分かりやすかった。
- 仲間がいることがすごく心強くはげみになることを実感しました。このテーマではたして本当にできるのか迷った時に背中を押してもらえた。
- 文献検索にいつも苦労しているが、医療大のＨＰから検索できることを知れた。
- 以前研究を行った際、文献検索が必要と言われた記憶がありますが、なぜ必要なのか理解できていなかったため、また、検索方法もよく分かっていなかったので、書籍中心に行っていました。先行論文を調べたりはなかったと思います。今回、ようやく理解できたように思います。
- 看護研究の文献の調べ方、パソコンでいろいろ検索できたので良かった。ルールに沿って少しずつ進めていきたいです。
- 目的の文献に、なかなか辿りつけず、文献検索にも知識やコツが大切とわかった。テーマが曖昧なまま、今回の研修に臨むことになっているので、大変もったいないことをしていると反省しています。
- 日常業務で、疑問に思うことを研究につなげられるようにしていきたい。
- 研究を進めるうえでの文献検索の方法や、研究の進め方を知ることができた。計画書の作成ができるか不安だが、頑張りたいと思う。

【質的・記述的研究】平成 29 年 9 月 19 日（火）

＜受講生の学び＞

- 難しい言葉が多かったし、聞いた事あるけど意味まで理解していなかった言葉もあって、意味合いが知れて良かった。難しい内容だが、実際の論文と照らして考えられた内容であったので良かった。
- 質的研究のルールや方法について、初めて講義を受けたので、難しい内容でしたが理解できた。論文を沢山読んで、知識を得ていこうと思う。実際に論文を読むことが分かりやすく学べた。
- 実際に進めている研究を題材に研究の進め方を示していただきましたが、とてもわかりやすかったです。最初の頭の中からどう変わっていったのかも視覚的に捉えやすくて、今まで受けた看護研究の講義の中では、一番理解しやすかったです。具体例が多いのも理解の助けになりました。
- 質的研究はどのようなものなのか、なんとなくではあるがわかった。先行研究や文献を読んで、整理することも大切であることもわかった。データ分析やカテゴリー分けが大変そうだと思ったが、研究をする上では必要な過程であるため、苦手意識を減らしていきたい。
- 質的研究について、詳しく学べて良かったです。今まで質的・量的研究については大まかにしか学んだことがなかった為、勉強になりました。今、当院の病棟で行っている看護研究でのインタビューを受けているので、個別インタビュー法のまとめ方など、研究チームのメンバーにも還元できると思いました。
- 論文や文献を読む際に、記載されている内容について、考えながら読み進めることができるようになったと思う。研究を行うにあたり、文献をたくさん読むことの必要性が理解できた。
- 先生の実例も交えての内容だったので、理解しやすかったです。
- 論文の構成の仕方で、何を伝えたいのか、伝わり方が変わってくるということがわかった。考えを文章にする、まとめる、読み込むというのも大変難しいと感じました。
- 質的研究についての内容と研究の進め方について、論文を読みながらの講義でわかりやすかった。研究をすることや論文を読むことは、なかなか気がのらないことだが、自分のスキルアップにもつながるので、今回の講義をきっかけに努力していきたいと思った。
- 質的・記述的研究について、実際にグループワークをした題材や研究で、実際に考えた事や進め方の例を出して説明・講義してもらい、わかりやすかったです。今後、研究をしていく時に役立てたいと思います。
- 講義内容はとてもわかりやすかった。看護研究したいことはいろいろあるが、何からどうすれば良いか悩んでしまう。今回の講義で、頭の中を整理してとりかかると、少し前へ進めるのではないかと思える様になった。

【量的研究】平成 29 年９月 21 日（木）

＜受講生の学び＞

- たくさんの例（失敗例など）をあげて下さることにより、より詳しく知ることができた。
- アンケート作りの注意点や着眼点がわかりやすくて良かった。アンケート一つ奥深く、目的をしっかりもってぶれないように整理していく必要性を実感した。（実際にアンケート内容を考えるということがあってより実感できました。）
- 量的研究で統計処理はさけて通れない部分で、抵抗感を強く持っていたが、「やってみよう」という気持ちが出てきた。アンケート用紙の作成にあたって、注意することが理解できた。看護研究で高齢者にアンケートをお願いする予定だが、今日の学びを生かして作成していきたいと思う。
- 実際にアンケートを作ってみたり、課題を考えたりすることで理解することができた。何を明らかにしたいのかを明確にすることが大切なため、今の課題をどうしたいのか考えていこうと思う。
- 難しく考えすぎていた自分がいたが、講義を聞き、なるほどなと思う所が沢山あった。今回おさえたポイントを、自分の中で消化しつつ、次へつなげられるように頑張りたい。
- 研究というと、大きな事に取り組まなければならないのかなと力んでいましたが、足元にある「何を明らかにしたいのか」というちょっとした疑問に対して、取り組むだけでいいということを知り、少し肩の荷がおりました。
- 量的研究ときくと、難しいというイメージが強かったのですが、先生の臨床の話を含めた講義を聞き、少し肩の力が取れた気がします。
- 気になるな、やりたいなと疑問に思うことがあったとしても、自分のおかれている状況や背景が頭にちらつき、どこまでやれるのか、やっていいのかなど不安になりながら一日過ごしていました。
- 今、漠然としているテーマがあるのですが、「何をしたいのか」「どんな結果が考えられるのか」を整理し、形にしていきたいと思いました。
- アンケート調査表を作るのにも、データ処理しやすい質問の仕方、結果が出やすいようにする、対象をよく考える等々、奥が深い。今までとっていたアンケートは、大変雑なものでした。よくデータやまとめの段階で反省することが多く、計画の段階がとても大切なことがよくわかった。
- 自分が何を明確にしたいのか、自分と向き合ってよく考えて、文献を調べてみます。まず、テーマを決める事から悩んでみます。
- 「何を明らかにしたいのか」のきっかけをつかみ、それを文章におこすことが自分は苦手なところなので、講義の冒頭でやったように、日常で感じた疑問を書きとめ、図にして紐解いてみたいと思う。
- 量的研究について、詳しく勉強させていただき、今後の看護研究に生かせる部分も多かったです。

【研究計画の作成と発表のルール】平成 29 年 9 月 26 日（火）

＜受講生の学び＞

- 倫理的配慮は、研究の各段階で綿密に考慮しなければならないということが良くわかった。
- 実際に研究計画書を作るという事で、今回学んだ事を踏まえて取り組みました。わからない部分は、先生が丁寧に教えていただきありがたかったです。昨年、院内研究を行いましたが、再度計画書に取り組んでみて、新たに学んだ事が多く、勉強になりました。
- こんなに、具体的に計画書を作成したのは初めてです。まず、研究の入り口に立てた。そこから、どう進歩していくかはこれからの自分の努力次第だなと痛感しました。
- 研究テーマがなかなか決定できなかったが、指導してもらい先が見えてきた。自分が何を明らかにしたいのか考えながら取り組んでいきたい。拒絶しないで頑張りたい。
- 研究計画は研究を行う上で基盤となるものである。スムーズに研究ができるように計画を練る必要があるが、計画をたてる時点で難しいと思った。
- 個別に指導の先生に話を聞いてもらえて良かった。また、自分の考えを話すことで、考えが少しまとまったような気がします。これを文章におこせるかが問題だと思います。
- 看護研究計画書の記入の仕方や困っている点など、先生に個別に相談できたのが良かった。分からない点を教えてもらえた。
- 自分の取り組みたい内容に、細かく指導を受けることができて良かった。
- 不十分な内容ではあるが、研究計画書の作成に取りかかることができた。
- 漠然とした内容が、個別に指導していただいた事で形になってきたと思いました。倫理的配慮もいろんな視点が知れました。
- 不可能かもしれないと思っていることを、他のメンバーに背中を押され、調べてみてもいいのかなという気持ちになった。協力してくれる人がいることは、本当にありがたい。指導の先生も、否定せずに親身になって、相談にのってくれてうれしかった。
- 興味のある分野、技術などについて、調べることができた。
  実際に指導を受けて、研究計画書の書き方・進め方が少しわかってきた。
- 調べようとした内容の先行研究が少なく、まだ実験的な内容になるため進めることが困難だった。興味がある分野が多く、テーマを選ぶのが大変だった。時間が足りない。
- 文献検索もできて良かったです。
- どこまでできるのか不安は残りますが、精一杯頑張ってみようと思います。
- 実験的な研究は、厳密にやろうとすると大変ということがよくわかりました。

【研究計画の作成と発表のルール】平成 29 年 9 月 28 日（木）

＜受講生の学び＞

- 研究計画書の作成を、丁寧に教えていただけ、自分が何をしたいのか明確にできた。
- 共有するテーマが何題もあったので、共同で研究できたら楽しそうと思いました。
- 他の方が書いた計画書は、要点がまとまっていて読みやすく、参考になりました。
- 論文作成時の留意点など、論文を書く際に必要な、細かいポイントやルールも知れて良かった。
- 研究計画書作成の難しさを実感しましたが、的確なご指導をいただきながら完成させるという達成感が味わえました。全員の発表が興味深く、うなづける部分ばかりでした。
- 研究計画書の発表を聞いて、臨床の現場での様々な課題について学べた。短時間で計画書を作成したので大変だったが、研究を行うことで、学びを深められると実感できたので、今回作成した計画書をすすめていきたい。
- 様々な病院や施設の看護師さんの研究計画の発表を聞けたので良かった。今後の研究に活かして行きたい。研究計画作成で聞きたかったことや、他の看護師さんの質問紙も参考にしたいと思う。
- 他メンバーの研究計画書を見させてもらって、同じような分野に興味あるのが沢山あるとわかり、すごく励みになりました。楽しいと思うことができたのは、大きな収穫なので、この気持ちが次につながればいいなと思ったところです。
- 今回、看護研究計画書を作成するにあたり、何度も書き直しをし、まだ不十分ではありますが、完成させることができ、達成感と充実感を感じられた。自分だけでは計画書の作成は難しかったと思う。
- 実際に看護研究計画書を作ることができた事が大きな財産になりました。
- 研究を行ったことがなかったが、実際に計画書を作成し、研究の基礎・基盤となるものを知ることができた。目的を明らかにすること、一貫性を持たせることが大切であると思った。苦手意識はまだあるが、研究をすると質向上につながるため、やってみようかな、と思える様になった。
- 指導を受けながら作成し、また、発表することで達成感があった。他施設の発表を聞くことで、様々な視点で学びがあった。
- それぞれの研究計画書が大変参考になった。同じような小規模病院なので、問題としていることも身近に感じられた。また、同じように疑問に思っていることが、他の人からみると違った視点からの計画書になっているところが興味深かった。様々な考え方があって良いのだと改めて思った。
- 避けてきた看護研究、とうとう受講となりました。思っていたよりも楽しかったです。もっと早いうちに（若いうちに・・・）勉強しておけばと反省しています。